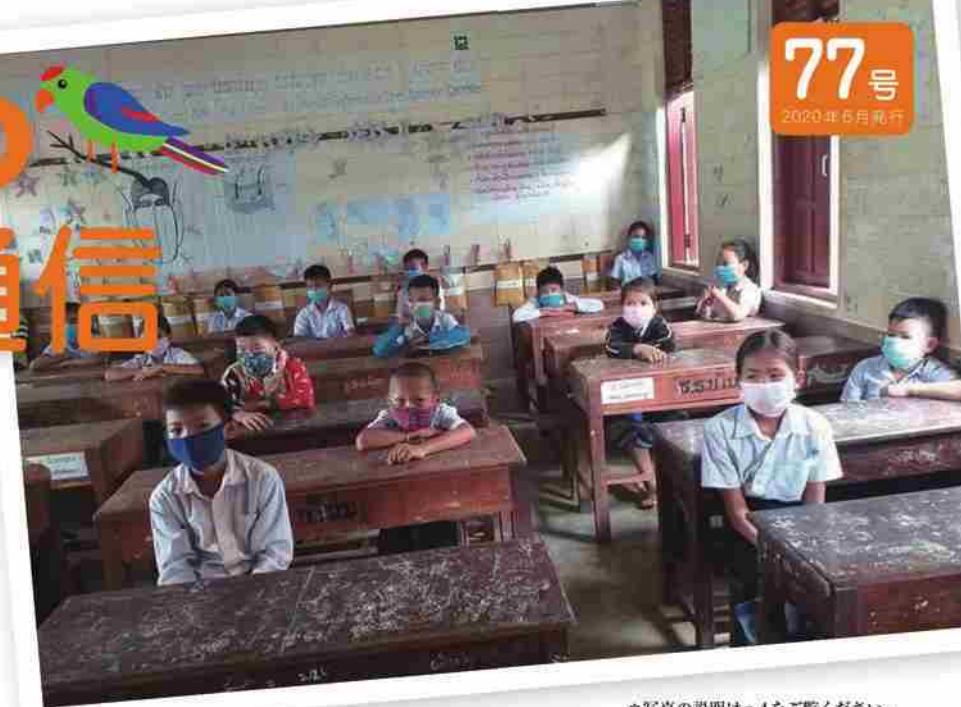


ラオスの こども通信

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- ・コロナ禍と子どもたち、学校、本とのふれあい ▶ p.1
- ・はじめる・つながる・つくりだす ▶ p.2
- ・「ラオスのこども」の仲間たち ▶ p.4
- ・メコンのほとり「届」 ▶ p.4



*写真の説明はp.4をご覧ください。

コロナ禍と子どもたち、学校、本とのふれあい

世界的な感染を受けて…

現在も世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス。ラオスでは、3月24日に初めて感染者が確認され、3月末に陸路・空路ともに閉鎖され、陸の孤島に。政府の決定で4月から不要不急の外出は禁止となり、県境も閉鎖、酒類提供飲食店やマッサージ店等のお店は営業禁止となりました。勤務はテレワークが推奨され、当会ラオス事務所は4月1日から5月3日まで在宅勤務としました。いつもは水かけで賑わう4月のラオス正月も政府から自粛の通達が出され、例年ない静かなお正月は、よりいっそう非常事態であることを感じさせました。

小学校から大学まですべての学校が、3月19日より一時閉鎖になり、ラオス事務所併設の図書館も閉館の状態です。

学校は閉鎖されて、子どもたちは…

そのような状況下でラオスの子どもたちは、どのような暮らしを送っているのでしょうか？学校がずっとお休みになっていた期間、勉強はどうしていたのでしょうか？ラオス事務所スタッフ、チャンシーの娘さん（カタイさん、中学3年生）と息子さん（ノックさん、大学1年生）に聴いてみました。

カタイさんの公立中学校では、先生から生徒のスマートフォン



スマホで宿題の問題をみるカタイさん、オンライン授業を受けるノックさん

に定期的に宿題が送られてくるのだそうです（ラオスのモバイル端末普及率は73%、首都ヴィエンチャンではスマホを持っている小中学生が多くいます）。送ってきた問題の解答を、教科書を見ながら、ノートに書いていきます。写真の教科は数学。他にも、国語や歴史、自然科学などの宿題が出たそうです。

ノックさんは、国立ドンドーク大学の観光学科専攻。大学では週に2日オンライン授業があり、コンピュータやワード、エクセルについての講義を受けているそうです。インドネシア大使館がオンラインで提供している英語学習の教材も活用しているとのことでした。

一方、地方の生徒たちはどうでしょうか？ヴィエンチャン県ポンホーン郡ポンサイ中学校のマーク先生に聴いたところ、宿題を休校前に生徒たちに配りましたが、質問があっても携帯電話を持っていない子もいるので、意思疎通に苦労したそうです。今後生徒たちに聞き取りをして、やり方を検討するということでした。

国もテレビやオンラインで授業の動画を配信しています。

教育スポーツ省・教育科学研究所では、テレビ、ラジオ、ウェブサイト、Facebookなどで小学校、中学、高校、大学と各課程で、主要教科の授業動画を、提供しています。



教育スポーツ省が提供している教科学習の動画
<https://www.facebook.com/157539988521037/videos/>

はじめ

「ラオスのこども」の取り組み

そんななか、私たち「ラオスのこども」も、子ども達のために何ができる事はないだろうか、と考えました。そして4月から新しい試みとして、当会で今まで出版してきた本の「読み聞かせ動画」を公開することにしました。

週に1本のペースで、スタッフの読み聞かせ動画を事務所で撮影、YouTube「ラオスのこども」チャンネルに投稿し、Facebookでも掲載し拡散しています。公開した動画は5月末までで、計6本になります。昔話に創作絵本、語学教本、紙芝居など、ジャンルはさまざま。これまで読書推進活動や出版事業を積み重ねてきた経験を活かして、スタッフは工夫しながら活動しています。

ラオスでは、家に本がある家庭が少なく書店もなく、子どもたちが本を読めるのは学校の図書室に限られ、図書室が整備されていない学校も多いのが現状です。親が子に絵本の読み聞かせをする習慣もありません。そのような環境のなかで、休校中の子どもたちが本に触れる機会を作るためには、この「読み聞かせ動画」が活躍してくれると考えています。

5月からの規制緩和に伴い、学校は、5月18日から最終学年(小学校5年、前期中等学校4年、後期7年)が、6月2日にはその他の学年も授業を再開します。しかし、子ども達が通常の生活を送れるようになるまでには、まだ時間がかかりそうです。当会では今回の経験を生かし、オンラインでの活動(読み聞かせ動画配信、E-booksの試動、ラオス版ホームページ・Facebookの整備)など、新しい取り組みも導入し、子ども達が本や、おはなしに親しめる活動を続けていきます。

(渡邊淳子／ラオス事務所駐在)



配信中のスタッフ読み聞かせ動画(絵本『ドテカあたまのおばけ』)

ラオス事務所スタッフの読み聞かせ動画は、
「ラオスのこども」ホームページで
ご覧になれます。

http://www.deknoylao.net/news/topic_201905.htm

「トップページ」→「NEWS」→
「ラオス語絵本読み聞かせ動画配信中！」
ふだん子どもたちにどんなふうに読み聞かせをしているのか、スタッフの「語り」・「おはなし」をぜひご覧になってみてください。



新たに中等学校2校の図書館開館に向けて

ヴィエンチャン県内中等学校の「図書館整備を通した読書推進事業」(外務省日本N G O連携無償資金協力)は、3月から事業2年目に入りました。新たにサカ中等学校、ヒンフープ中等学校の図書館建設と開館を予定しています。

ラオスでは、4月から他県への移動が規制され、現地の施工業者とヴィエンチャン都にいる施工監理者、日本の設計者がメールやSNSなどで頻繁に連絡を取り、確認・指示をしながら何とか工事を進めています。10人以上の会議や研修も禁止されているため、4・5月に予定していたオリエンテーションや郡教育局向けの研修も延期となりました。これから遅れを取り戻すように計画を見直しながら実施していきます。



ヒンフープ中の建設現場。制約を受けながら工事は進んでいます。

『おおきなかぶ』ラオス語版完成!!

3月中旬に、ようやく3,000部完成しました！

支援者の皆さん、出版元の福音館書店、出版コーディネートを担当した新藤雅章さんと高野直子さん、ラオス事務所スタッフそして現地印刷会社…すべての力が合わさって出版までたどり着くことができました。ありがとうございます。

ラオス語版『おおきなかぶ』は、ラオス国内の学校図書室に配布するとともに、一人でも多くの子ども達が手にできるよう、教育支援団体への頒布や一般販売にも力を入れていきます。



ラオス語版『おおきなかぶ』日本でも販売しています。こちらのサイトからお申込みください。<https://laostoehon.thebase.in/>

アタプー学校図書室支援 実施

3月17日から27日にかけてアタプー県の学校図書室支援を行ってきました。2018年にダム崩壊被害のあったサナームサイ郡の4校(サナームサイ中等学校、トンテー中、ドンムアン小、タドゥਆ小)の新規図書室開設と、同郡ならびにその周辺のサイセター郡・サマキーサイ郡の4校(ミットサムバン小、バンサイ小、ワットルアン小、セコーン小)の既存図書室フォローアップです。2018年度に支援いただいた緊急募金で実施しました。

研修最中の19日から、新型コロナウイルスの影響により学校一時閉鎖の通達が出たため、サナームサイ郡での新規図書室開設では、生徒が参加できず先生のみの研修となりました。4校で2,275冊の図書を配架しました。新しく設置した図書室が、これまで被災し不自由な生活を強いられてきた子ども達の心の糧となることを願っています。

今回ぎりぎりのタイミングで図書室開設・フォローアップを実施できましたが、研修に参加できなかった学校の生徒たちには、学校再開後、何らかのかたちでフォローしたいと考えています。



学校図書室の開設準備をする先生たち（タドゥਆ小学校）

特別募金にご協力お願いします

新型コロナウイルス感染防止のため、
ラオスでも営業停止や移動禁止の措置
がとられました。給付金や休業補償もな
いため、生活に支障が出ている人々もい
ます。また、学校が休校となったことによ
り、子どもたちは今まで以上に本に接す
る機会を失っています。ラオスの子どもたちに読書の機会を
届ける活動を継続できるよう、ぜひ皆さまの暖かいご理解と
ご協力をお願いいたします。

ラオスのこども 代表 チャンタソン インタヴォン



【ご寄付の送付先】

①郵便振替
00140-6-462494

②ゆうちょ銀行
〇一九(ゼロイチキュウ店) 当座 口座番号 0462494

③クレジットカード
ホームページの「寄付をしよう」からお入りください。

絵本・小物のネット販売を開始！

「ラオスのこども」は絵本とラオス小物のネット販売を始めました。絵本は、これまで出版したものの中から、人気の高い選りすぐりの本を取り揃えました。ラオス人のお友だちへのプレゼントとして、旅行でラオスに行く際のお土産として、そしてラオス語学習の教材として、どうぞご活用ください。また、ラオスの手紡ぎシルクに天然素材で染色を施した布を使った素敵なおもちゃを取りそろえました。

一度お訪ねください。お知り合いにも、ぜひご紹介を！



販売サイトのトップページ <https://laostoehon.thebase.in/>



感謝！ラオス語絵本プロジェクト

新型コロナウイルスの影響で4月7日に緊急事態宣言が発令され、さらに外出自粛が要請されることになりました。そうした中、「ラオスのこども」が、自宅でできるボランティアとして呼びかける「ラオス語絵本プロジェクト」が東京新聞(4/22)で紹介されたり、SNSで話題になりました。自宅でお子さんといっしょに日本の絵本にラオス語翻訳文を貼り付けてラオス語絵本を作るボランティアに関心が高まり、60人を超える方々から参加希望が寄せられ、記事の掲載から1か月以上過ぎた後も連絡をいただいている。

「ラオスのこども」が翻訳文を持つ絵本リストの中から選んでいただいた翻訳文をお届けし、ラオス語絵本を作ります。

「私や子どもがワクワクして読んだ絵本を、ラオスの子ども達が同じようにワクワクして読んでくれれば嬉しいです」という感想や、追加で翻訳文の申込みをいただきました。絵本は、当会が支援するラオス国内の300を超える図書室に届けます。

本に触れる機会が少ないラオスの子どもたちにとって、絵本が増えることは新しい世界に触れるための希望となります。

「ラオス語絵本プロジェクト」は現在も参加者を絶賛募集中です。くわしい案内については事務局までご連絡ください。

e-mail: alctk@deknoylao.net

東京事務所の状況(イベント中止・在宅勤務)

新型コロナウイルス拡散防止対策の影響から、当会ではやむなく以下のイベントを中止および延期しました。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ■駐在員報告会(2/29) | ■活動ミーティング(3/21) |
| ■織物展in京都(3/25~30) | ■ビーマイパーティ2020(4/18) |
| ■ラオスフェスティバル2020(5/30・31) | |

情勢が落ち着き何らかのかたちで開催する場合には、あらためてお知らせします。よろしくお願ひいたします。

5月現在、東京事務局では在宅勤務体制をとり、メールでのやり取りやオンライン上での会議を行いながら、業務を進めています。コンビニを数軒まわって翻訳シートをコピーするなど、いつもは事務所で出来た作業も時間とコストがかかり大変です。一刻も早い終息と、みなさんのご健康をお祈りしています。

「ラオスのこども」の仲間たち

体験した全てが私の人生を豊かなものに

西村恵子さん／ラオスのこども理事

ラオスと出会ったのは2004年夏でした。スタディツアーリーに始まり、子どもの施設で仕事をしているラオス人スタッフに研修をしたり、子どもたちへのワークショップ、一緒に踊ったり遊んだり、幼稚園、小学校、図書館など訪問させて頂き、そこで体験した全てが私の人生を豊かなものにしてくれています。



昨年、友人達を誘ってヴィエンチャンに行きました。メンバーは、ラオスでの活動経験のある4人と初参加のご夫婦の計6人。6人の合計年齢なんと396歳！パワーに溢れ、遊びのアイデアもたくさん蓄えています。なんと言っても、東京おもちゃ美術館の学芸員が4人も居るので最強のメンバー……かな？

訪問先は、「ラオスのこども」現地事務所の紹介の小学校2校と、安井清子さんのドンパレープ図書館とチャンタソンさんのホアンカオ幼稚園です。小学校ではストローと紙を使って竹とんぼのようなおもちゃを自分で作って遊んでもらいました。3年生(日本の2年生)にハサミを配ったのですが、使えない子がたくさんいてびっくりしました。でも、きっとこの子たちは包丁やナイフ、斧は上手に使えるのだろうなと思いました。

その他、ガリガリトンボや手品を体験。お終いは「アブラハムの子」を踊りました。動きが面白いので「きゃーきゃー」「げらげら」大騒ぎ。子どもも大人も汗びっしょりになりました。

ドンパレープ図書館は高校生もいて手品やゴム鉄砲が大受け。折り紙を使ってのタングラムは女の子たちが夢中になりました。小さい子たちもストロートンボを作って飛ばしたり、ゴム鉄砲は一番人気で順番待ちをするほどでした。(右へ)

メコンのほとり届

需要急上昇の新規サービス

昨年あたりから、首都ヴィエンチャンでは、スマートフォン・アプリを利用したサービスが出てきました。その筆頭が、タクシーの配車サービスと、食材・料理のデリバリーサービスです。なかでも、食材・料理のデリバリーサービスは、コロナで外出禁止となつたこともあり、この数か月で需要が急上昇しました。

しくみは日本や海外で使われているウーバーイーツなどのサービスとほぼ同じ。アプリを使って注文、配達場所を設定し宅配してもらいます。料理の配達アプリではレストランやカフェだけでなく、露店まで登録されています。注文したけど配達が来ないなんてことも、たまにあるよう。料金はオンライン決済も出来ますが、その場で払うことが多いみたいです。

表紙の写真

ポンサイ小学校5年生の学校再開時のように。隣のポンサイ中学校図書館担当のマーク先生が送ってくれました。マスクをして、2人掛けの机に1で座わり距離をとっています。

中等学校では、最終学年の再開前に、感染予防で各教室の前にパイプを引いて手洗い場を増設したんだそう。地方では、ヴィエンチャン都以上にマスクが手に入りにくいようです。

ラオスのこども通信 77号

2020年6月発行 編集人:森透
発行: Action with Lao Children / Deknoylao
(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども
代表 チャンタソン インタヴァン
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303
TEL/FAX 03-3755-1603
e-mail: alctk@deknoylao.net
HP http://deknoylao.net
Facebook https://www.facebook.com/deknoylao



冬募金 お礼と報告

おかげさまで、90万8,286円の寄付をいただきました。ヴィエンチャン県内の既存学校図書室(約10校)への支援に使わせていただきます。2019年12月には、対象校の実態把握調査を実施しました。学校が再開し、2020年度の学校図書室フォローアップが早く実施できることを願っています。



ホアンカオ幼稚園では、先生たちも巻き込んで遊びました。パネルシアターにゲーム遊び、鬼ごっこも。ストロートンボを飛ばしてパブリカを踊って、ガリガリトンボに手品。盛り沢山でした。もちろんお終いは「アブラハムの子」を踊りました。

夜のビアラオの美味しかったこと！訪問したそれぞれの場所の皆さんに、喜んで頂けたようで本当に嬉しかったです。この喜びや充実感があるから15年も通い続けているのだなあ… そしてまだまだやめられないと…思いました。

ラオスの空港には独特の匂いがあります。建物は新しくなっているけれど、ラオスの匂いは変わりません。空港に降り立つ度に「おかえりなさい」と、私を優しく迎えてくれる匂いです。

提携しているお店に注文のあった料理を受け取りに来た配達員のお兄さん。



タクシー配車サービスのアプリ。
今年から、ルアンパバーンでも始まっていたのですが…。

4月のロックダウン時には、車の往来が無くなった道路に、デリバリーのバイクが走る光景をよくみかけました。

片やもうひとつのタクシー配車サービスは外国人が多く利用することもあり、コロナのあおりを受け観光客の激減・在留外国人の帰国で、利用者が激減してしまった模様。コロナ禍で、完全に明暗が分かれる結果になりました。(渡邊淳子)